

市民学コース 6 富士見の歴史

定員 60 人

# 歴史散歩

「歴史の町 吉見町」

## 吉見百穴と松山城跡の見学

実施日 6月20日

### 歴史散歩 「歴史の町 吉見町」見学

日時 6月20日(木) 集合時間みずほ台駅 9:00  
東松山駅 10:00

今回の歴史散歩は、吉見百穴、富士見市の難波田城主 難波田弾正(善銀)ゆかりの松山城の見学を企画しました。

吉見町古墳時代の歴史、自然を探訪しながら受講生同士の交流を図った。

当日は、みずほ台駅と東松山駅の2か所を集合場所にし、16名の参加者でした。現地の市民ガイドを依頼し、長く歩くのがきつい方も含め全行程を堪能され、無事に帰宅の途に就いた。

### 岩室観音

ここを参拝すると四国札所88か所を巡ったことになり、胎内めぐりや木造の山門を回る階段もあり、一説では松山城の抜け道ではないかなど興味深い話を聞けました。江戸時代に再建され木彫が施されていた。

庶民は、簡単に旅することができない身の上をここに参拝することで叶えようと大勢が押し掛けたそう。



## 岩窟ホテル

現在は立ち入り禁止ですが、鬱蒼とした樹木と古びた鉄門を見ると、いかにも心霊スポットにふさわしく思える。

## 吉見百穴

東松山駅から徒歩3キロ。受付を通ると目の前に、山の頂に向かい放射状に百穴が広がって見える。東大の調査・発表で、長く「コロボックルの住居跡」とされた。

現在では、古墳時代後期から終末期の6世紀末から7世紀後半につくられた「横穴は墓である」という結論になった。横穴数は219基。

第2次世界大戦末期(1944年から1945年)には吉見百穴一帯の丘陵斜面に、横穴墓18基を破壊し地下軍事工場が作られ、巨大なトンネルが数多く掘られた。中嶋飛行場がB29の爆撃で壊滅的に破壊され、その部品を作らせるのが目的で多数の朝鮮人を徴用し、高さ1m足らずのタコ部屋に住まわせ過酷な労働を強いた。

曇り時々晴れで暑い日差しの中で、地下軍事工場のトンネル入口に入ると年中15度という温度に一息つきました。

現在は、最近一部分崩落があったということで4 mの入り口以外、立ち入りができません。どこも鉄格子で封鎖されていた。



## ヒカリゴケ

国指定天然記念物。「吉見百穴のヒカリゴケ」は植物分布上貴重なもので最近の温暖化の影響が見られなくなり、絶滅危惧種になっている。

幸運にも私たちは見られましたが、ガイドの照らす懐中点灯で黄緑色に輝く10 cmほどの大きさでした。

大澤家所蔵の吉見百穴からの出土品（閉塞石など）とモースが撮った明治頃の吉見の庶民の日常写真展示を見せてもらった。

## 吉見町埋蔵文化財センター

昼食後、吉見百穴に隣接するセンターで戸塚理事からの説明を聞きながら発掘の歴史、意義、横穴墓の構造、出土品やかぶと塚古墳の模型など見ることができた。

なお、松山城は道のぬかるみとスズメバチの危険により残念ながら行くことができなかった。

